



お盆前までの高温・干ばつにより、ハダニ類が多発状態となりました。お盆中の降雨等もあり、現状では小康状態に入ってきましたが、9月残暑も厳しいとの予報もあるため、しばらく注意が必要です。また、シンクイムシ類の被害拡大が中生種で心配されます。秋季の定期散布を徹底するとともに、被害果を見つけ次第、園地外へ運び出す・水没処理を行う等の二次被害防止対策を講じてください。早生種で着色不良が顕著ですが、成熟は昨年より7日程度進んでいます。ついでには、中生種の各種管理作業も『いつもより10日早い』の意識の中で進めてください。

りんご

9月上旬の薬剤散布

◆ 散布日：9月 日
◆ 散布量： リットル

散布時期： 9月1日～5日（前回散布から15日後）

散布薬剤： 水 100 リットル

展着剤 10ml

ストライド顆粒水和剤 66g（前日、3回） *注意事項③参照

ダントツ水溶剤 50g（前日、3回）

対象病害虫：炭そ病、すす点・すす斑病、褐斑病、斑点落葉病、黒星病、シンクイムシ類、カメムシ類
キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、コナカイガラムシ類、リンゴワタムシ、（ハダニ類）

散布量：10アール当たり 600 リットル

〔注意事項〕 *必ずお読みください。

- ① ハダニ類：アカリタッチ乳剤1,000倍（前日、－）を加用する。尚、展着剤の次に混用する。
- ② ストライド顆粒水和剤は高温時（30℃以上）に散布すると薬害（葉焼け他）を生じる恐れがあるので、涼しい時間帯に散布する。
- ③ ストライド顆粒水和剤に代えて、アリエッティC水和剤1,000倍（前日、3回）又はオーソサイド水和剤1,000倍（前日、6回）でもよい。
- ④ シンクイムシ類対策：中生種等で被害果を見つけ次第、園外に持ち出すか、水没処理を行う。
- ⑤ 中生種軟化防止対策：液状カルシウム資材「セルキープ」の1,000倍を加用する。
- ⑥ 園地の外周等死角がないように、散布量は多めに設定する。また、過繁茂園では、薬液が樹内部まで到達するよう徒長枝切りや支柱立て等を散布前に実施する。

◆ 次回（9月中旬）散布予定：9/15～20
秋季のすす病・黒星病予防等